

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 205人
- ② 数学 205人

5 留意事項

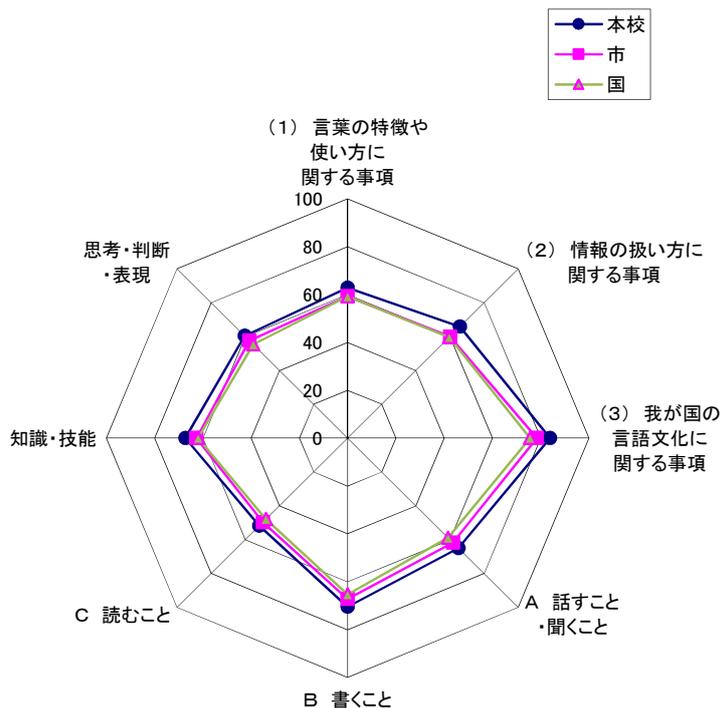
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	62.8	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	65.9	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.9	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	65.0	61.8	58.8
	B 書くこと	70.5	67.2	65.3
	C 読むこと	51.8	49.7	47.9
観点	知識・技能	67.3	62.7	62.0
	思考・判断・表現	60.4	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

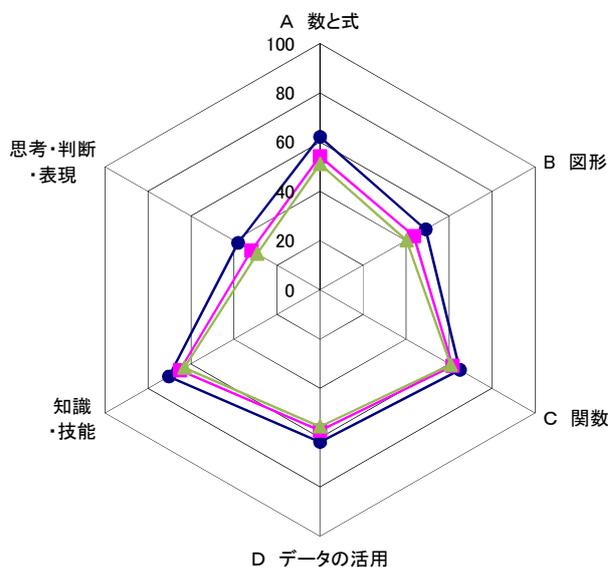
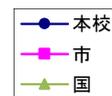
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○領域の正答率は62.8%で、全国の平均正答率を3.6ポイント上回っている。 ●【漢字を書く問題】の正答率は75.6%である一方で、無回答が7.8%である。【文の成分の順序や照応に関する問題】の正答率が53.2%で、全国の平均正答率を0.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業中はもちろん、宮っ子ダイアリーなど、日頃から既習の漢字を丁寧に書くことを指導する。他教科でも同様にするよう、共通理解を図る。 ・これまでと同様に授業で短文作成や作文を書くなどの活動を通して、文を構成する力をつけさせたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	○領域の正答率は65.9%で、全国の平均正答率を6.3ポイント上回っている。特に、【本文中の情報と情報の関係についての問題】の正答率は80.0%で、非常に高い。 ●【話し合いの中の発言についての問題】の正答率が51.7%で、全国平均を上回っているもののあまり高くない。	・「価値観」などの抽象的な表現については、本文全体の情報をもとに自分なりの表現に置き換えるよう指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○【行書の特徴についての問題】のみで、領域の正答率は83.9%で、全国の平均正答率を8.3%上回っている。 ●【行書の特徴についての問題】の15.6%の誤答があった。	・行書の特徴や楷書との違いについて、書写の授業で再度確認させる。
A 話すこと・聞くこと	○領域の正答率は65.0%で、全国の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ●【本文の内容を踏まえ、自分の考えを書く問題】の平均正答率が53.2%で全国の平均正答率を8.5ポイント上回っているが、無回答が7.3%であった。	・無回答の生徒は、まず少しでも書いてみるという姿勢を持たせるために、まず自分の考えを思い浮かべ、次にキーワードを考えるなど、スモールステップで文章を肉付けして書くよう指導をしていく。
B 書くこと	○領域の正答率は70.5%で、全国の平均正答率を5.2ポイント上回っている。 ●【表現を工夫して物語の最後の場面を書く問題】の無解答率が12.7%で、高めの結果となった。	・授業において、自分のイメージを言語化して書く時間をできるだけ設けるようにする。 ・物語においては、自分を登場人物に置き換えて、その心情を考えてみるよう指導していく。
C 読むこと	○領域の正答率は51.8%で、全国の平均正答率を3.9ポイント上回っている。 ●【本文中における図の役割についての問題】の正答率が38.5%で、全国の平均正答率を上回っているが、非常に低い結果となった。	・説明的文章で図や資料が添えられている教材において、その役割について触れ、本文の内容のイメージを膨らませることができるよう指導を重ねていく。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	62.1	54.2	51.1
	B 図形	49.1	43.6	40.3
	C 関数	65.0	61.7	60.7
	D データの活用	61.8	57.1	55.5
観点	知識・技能	70.4	65.2	63.1
	思考・判断・表現	38.1	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○領域の正答率は62.1%で、全国の平均正答率を11.0ポイント上回っている。特に【 n を使って連続する2つの偶数を表す問題】の正答率は56.1%で、全国の平均正答率を21.3ポイント上回っていた。 ●【ある予想が成り立つことを説明する問題】の正答率は54.1%で全国の平均正答率を18.2ポイント上回っているが、無回答が20.5%と高い。	・基本的な計算技能の習得のために、反復練習を継続して行っているが、今後も継続し、より一層の定着を図る。 ・数と式の性質について文字を使って説明する問題に対して苦手意識がある生徒が多いので、「文字の設定」⇒「立式」までを目標とするなど、スモールステップで取り組むところから始め、そこから順序立てて説明する演習を繰り返し、苦手意識をなくしていく。
B 図形	○領域の正答率は49.1%で、全国の平均正答率を8.8ポイント上回っている。 ●【三角形の合同の証明問題】の正答率は38.5%と全国の平均正答率をポイント12.7ポイント上回っているが、低めではあり、無回答も29.3%に上る。	・図形の性質を説明する際に、根拠をもって述べること、順序だてて文章を構成することが苦手な生徒が多い。図形の基礎・基本を見直すとともに、説明するための根拠に常に目を向けるよう指導していく。 ・証明問題に苦手意識をもっている生徒が多いので、証明の形や仮定(分かっていること)を確認する等、生徒の理解度に応じて段階を追ったきめ細かな指導を行う。
C 関数	○領域の正答率は65.0%で、全国の平均正答率を4.3ポイント上回っている。 ●【「強」と「弱」でのストップの使用時間の違いについて説明する問題】の正答率は21.0%と全国の平均正答率よりは高いものの、全体的に低めである。また、無回答は18.0%で、全国の平均無解答率より1.6ポイント高い。	・1次関数の傾きやy軸上の切片の意味することや、 x の値が分かれば y の値を求めることができることは認識しているが、それを言語化して伝える力が不十分であるので、問題を解決する方法を話し合う活動を取り入れる。 ・日常生活に関わる具体的な事象について、関数の考え方を利用して解決することの有用性を感じさせるように指導する。
D データの活用	○領域の正答率は61.8%で、全国の平均正答率を6.3ポイント上回っている。特に、【最頻値を求める問題】の正答率は82.4%で、全国の平均正答率を8.1ポイント上回っている。 ●【2枚の硬貨を投げて2枚とも裏が出る確率を求める問題】の正答率は78.0%で、全国の平均正答率を4.9ポイント上回っているが、「1/3」と誤答している生徒の割合が県や全国の割合を上回っている。	・日々の授業においても、最頻値などの代表値については、その意味を理解し、習得できていることが見受けられる。代表値については、今後もその都度確認をしていく。 ・確率を求める問題においては、どんなことが「同様に確からしい」かを確かめた上で、樹形図や表を丁寧に書いていくよう、繰り返し指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○【自分には、よいところがあると思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が87.1%である。また、【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。】という質問に対する肯定的な回答は94.8%で9割を超える。さらに、【困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。】の質問に対する肯定的な回答は74.6%で、全国平均より7.1ポイント上回っている。安心した学校生活を送れている生徒が多く、自己肯定感を高めることが概ねできていると言える。

○【学校に行くのは楽しいと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が85.7%で、全国や県の平均をやや上回っている。また、【友達関係に満足していますか。】の質問に対する肯定的な回答が90.5%で9割を超え、良好な人間関係であることが伺える。否定的な回答をした生徒については、今後注意して見ていく。

○【1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。】の質問に対し、「週3回以上」と回答した生徒の割合は73.3%で、県の平均より14.8ポイント、全国の平均より8.9ポイント上回っている。授業におけるICT活用が浸透してきている。

○【1, 2年の時に受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が89.5%で、全国の平均を3.8ポイント上回っている。

●【携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。】の質問に対する肯定的な回答が69.8%で、県の平均を5.4ポイント、全国の平均を2.4ポイント下回っている。使う時間帯や場所はもとより、情報モラルについても大いに課題を残しており、今後も定期的な指導が必要である。

●【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が75.6%で、県の平均より3.4ポイント下回っている。様々な活動の中に、自分や他人の意見との違いについて考える機会があることを認識させたい。

●【授業以外に、1日当たり2時間以上勉強をしている生徒】は平日は30.6%、休日は48.3%である。これは昨年度の本校3年生より平日は5.0ポイント、休日は9.4ポイント下回っている。

●【数学の勉強は好きですか。】の質問に対する肯定的な回答が49.3%と半数を下回る。県の平均を6.4ポイント、全国の平均を7.9ポイント下回っている。また、【数学の授業の内容はよく分かりますか。】の質問に対しても、肯定的な回答が63.6%で、県の平均を12.2ポイント、全国の平均を12.1ポイントも下回っている。

宇都宮市立星が丘中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成 ・本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室に据え置きしたホワイトボードの活用ならびにClassroomや学びポケットの活用を推進する。 ・各授業において【本時の目標】を提示し、そのねらいに即した授業の展開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が75.6%で、県の平均より3.4ポイント、全国平均より0.3ポイント低い結果となった。 ・【1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。】の質問に対する肯定的な回答が83.3%で、全国平均より3.1ポイント高くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 【学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。】の質問に対する肯定的な回答が74.1%で、県の平均より6.0ポイント、全国の平均より3.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮モデルの「はっきり・じっくり・すっきり」の中で、学ぶことの良さを実感できる「すっきり」を目指す授業の展開に努める。 ・各授業の最後にノートやワークシートにまとめさせたり発表させたりする活動を、今後も継続して行う。 ・各授業において前回の授業を振り返り、本時の授業との関連性を確認する時間を設ける。